

Environmental Activity Report

鬼怒川ゴムグループ環境報告書2015



鬼怒川ゴム工業株式会社
KINUGAWA RUBBER INDUSTRIAL CO.,LTD.

編集方針

本報告は鬼怒川ゴムグループの環境に対する考え方、取り組みをステークホルダーの皆様に分かりやすく伝えるために編集しました。

目次

- P2 編集方針・目次
- P3 トップメッセージ・環境理念・環境方針
- P4 報告対象組織
- P5 会社概要・売上げの推移
- P7 環境マネジメントシステム・環境マネジメント推進組織
- P8 中期環境目標
 - ・ P9 CO2 排出量(エネルギー使用量)
 - ・ P11 産業廃棄物量
 - ・ P12 VOC(揮発性有機化学物質)発生量
- P13 グローバル環境データ(水資源投入量、CO2 排出量、産業廃棄物量)
- P13 そのほかの環境データ
 - ・ P13 大気汚染物質の排出防止
 - ・ P14 PRTR
 - ・ P15 マテリアルバランス
- P16 地域との共生・社会貢献



■ トップメッセージ

『お客さまの満足の追求』と『CSRへの取組み』を通じて社会貢献を実現してまいります。

当社グループは、1939 年（昭和 14 年）に創業以来、自動車用のゴム・合成樹脂製品を核として、世界の自動車産業の発展と共に歩んでまいりました。「お客様から信頼される商品を作る」を第一義と考え、開発・設計から生産までのあらゆる工程で、また日本・北米・中国・アジアの全拠点でお客様のいかなるニーズにも応えうる高い技術力の確立と高品質な製品づくりに取り組んでいます。現在では日系カーメーカーはもとより、欧米メーカーからも高い信頼をいただいております。

中期環境目標では CO2 排出原単位削減、産業廃棄物量最終処分率削減、VOC 排出量削減を策定し全社で目標達成に向け活動しています。その中でも CO2 排出原単位削減は地球温暖化対策として重要なテーマと位置付け、自動車産業で培ってきたモノ造りノウハウと蓄積した高分子技術を生かし、部品の軽量化・樹脂化、省エネルギー機器の採用、工程不良低減等により、生産に使用するエネルギーの削減活動を全社で推進しています。

こうした取り組みを通じて、時代を先取りし、環境にやさしい、人を大切にした高品質の商品を提供し、お客様の満足度を高め、喜ばれる会社を目指し、今後も更に社会への貢献も図ってまいります。

鬼怒川ゴム工業株式会社 代表取締役社長執行役員

関山定男

環境理念

当社は、地球の環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりある社会造りに貢献してきます。

環境方針

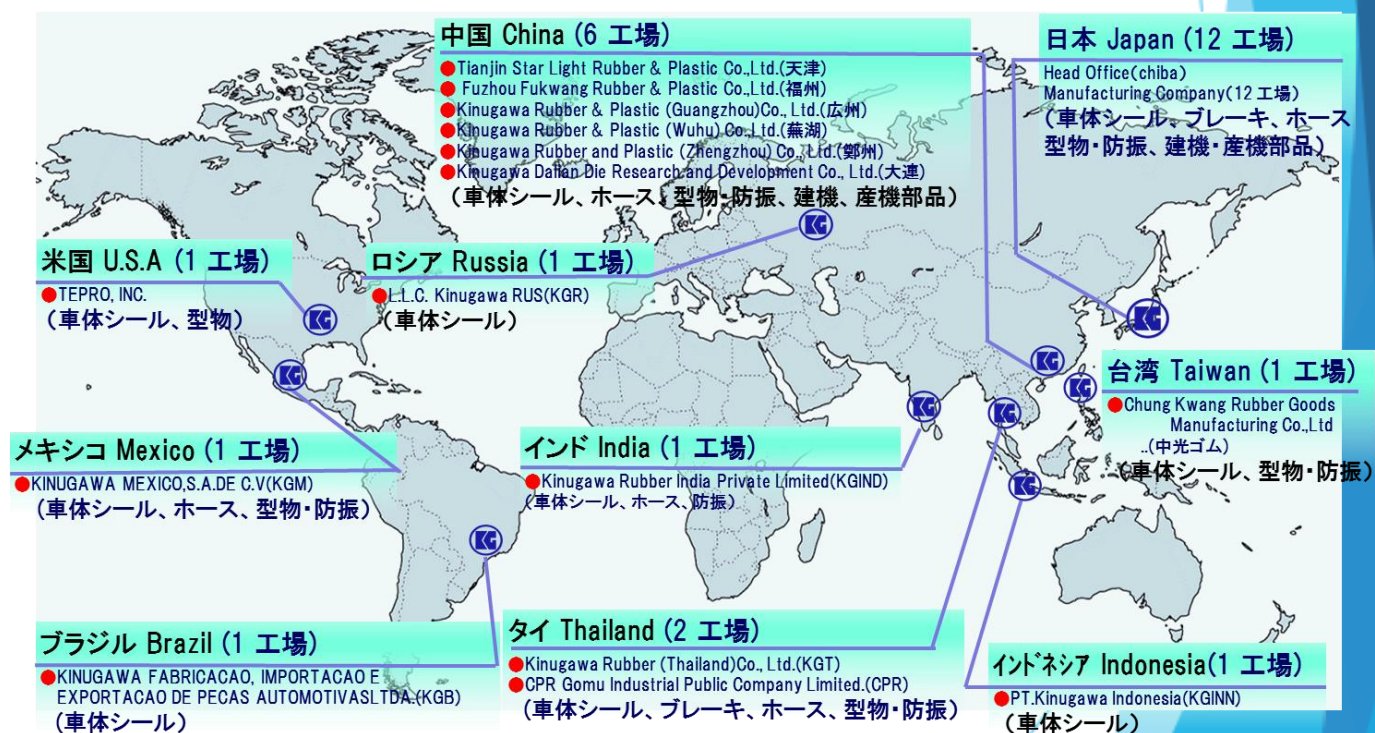
当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用しています。

- 1) 当社の事業活動が、地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、汚染の予防・継続的な改善を進めながら地球環境保全に努めます。
- 2) 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に、省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。
- 3) 関連する法規及び条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。
- 4) 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。

報告対象組織

報告対象組織は国内 12 拠点、海外 13 拠点

報告対象期間は 2014.4～2015.3(国内)、2014.1～2014.12(海外)です。



■ 会社概要

会社名	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial co., Ltd.
創 立	昭和 14 年 10 月 1 日
資本金	56 億 5 千 4 百万円(平成 27 年 3 月 31 日現在)
売上高	連結 761 億円 単独 340 億円(平成 27 年 3 月期)
発行済株式総数	67,299,522 株(平成 27 年 3 月 31 日現在)
代表者	代表取締役 社長執行役員 関山定男
本社所在地	〒263-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町 330 番地 Tel:043-259-3111(代表)
従業員数	連結:4,134 名、単独:298 名(平成 27 年 3 月 31 日現在)

● 事業内容

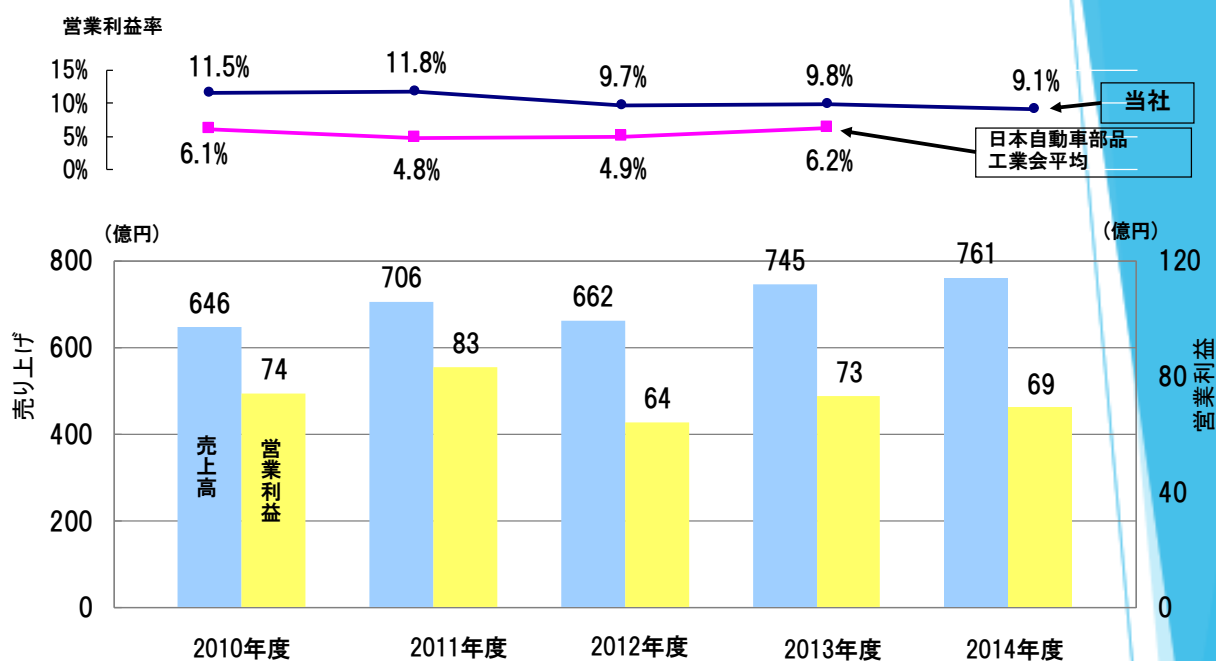
1. 自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売
2. ゴム及び合成樹脂製品製造機械設備の製造、販売、修理
3. 金属加工機械設備の製造、販売、修理
4. 内装工事、タイル・レンガ・ブロック工事の請負、施工
5. 不動産、動産の賃貸借、売買、仲介及び管理
6. 情報通信機器の販売及び賃貸借
7. 陸上運送業、倉庫業及び荷造梱包業
8. 損害保険代理業及び生命保険募集に関する業務

● 主要取引先(五十音順)

愛知機械工業株式会社	Aichi Machine Industry Co.,Ltd.
株式会社エフテック	F-TECH INC.
カルソニックカンセイ株式会社	Calsonic Kansei Corporation.
河西工業株式会社	Kasai Kogyo Co., Ltd.
ジャトコ株式会社	JATCO Ltd.
スズキ株式会社	Suzuki Motor Corporation.
ダイハツ工業株式会社	Daihatsu Motor Co.,Ltd.
東洋ゴム工業株式会社	Toyo Tire & Rubber Co.,Ltd.
日産工機株式会社	Nissan Kohki Co., Ltd.
日産車体株式会社	Nissan Shatai Co.,Ltd.
日産自動車株式会社	Nissan Motor Co.,Ltd.
日立オートモティブシステムズ株式会社	Hitachi Automotive Systems,Ltd.
株式会社ファルテック	Faltec Co.,Ltd.
フォルクスワーゲン	Volkswagen AG
富士重工業株式会社	Fuji Heavy Industries Ltd.
プレス工業株式会社	PRESS KOGYO Co.,Ltd.
ボッシュ株式会社	Bosch Corporation.
堀硝子株式会社	Horigarasu Co.,Ltd.
本田技研工業株式会社	Honda Motor Co.,Ltd.
三菱自動車工業株式会社	Mitsubishi Motor Corporation.
明治産業株式会社	MEIJI SANGYO COMPANY
UDトラックス株式会社	UD Trucks
ユニプレス株式会社	Unipres Corporation
株式会社ヨロズ	YOROZU CORPORATION.

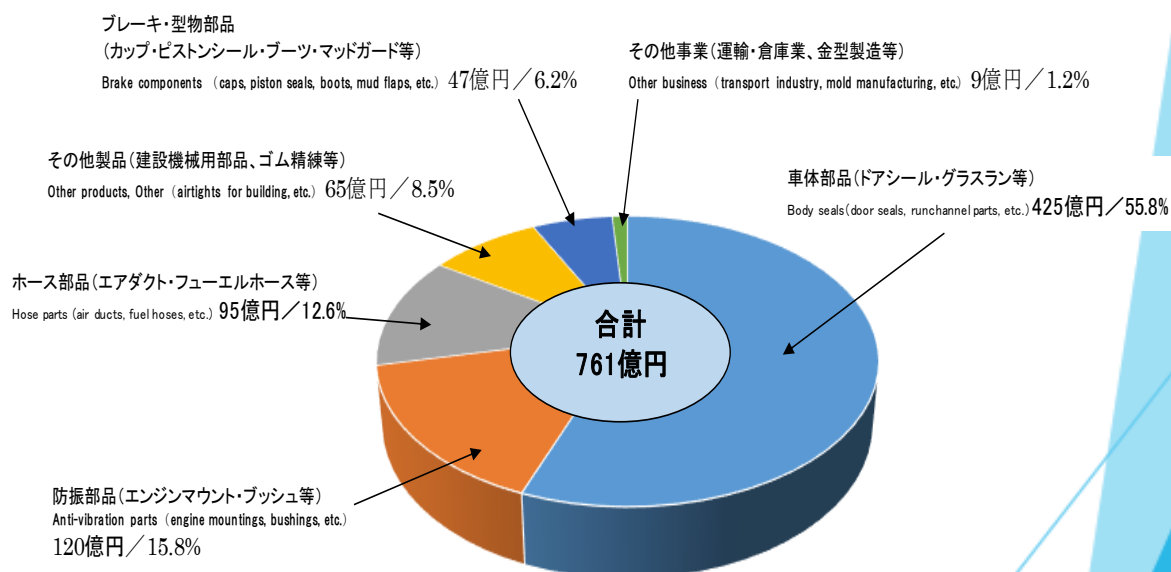
● 業績の推移

売り上げ、営業利益、営業利益率



● 製品別売上高比 (2015年3月期)

製品別売上高と比率



■ 関係会社環境マネジメントシステム

国内外の主な生産拠点で環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得しています。新規拠点も順次認証取得しています。

ISO14001認証取得状況

会社名	所在地	取得時期
真岡事業所 (株式会社キヌカワ防振部品、株式会社キヌカワブレーキ部品)	栃木県 真岡市	2002年
株式会社キヌガワ郡山	福島県 郡山市	2003年
株式会社キヌガワ大分	大分県 中津市	2003年
帝都ゴム株式会社	埼玉県 入間市	2003年
CPR GOMU IND. P.L.C	タイ アユタヤ県	2004年
中光橡膠工業股份有限公司	台湾 桃園県	2004年
福州福光橡塑有限公司	中国 福州市	2004年
佐藤ゴム化学工業株式会社	千葉県 成田市	2005年
鬼怒川橡塑(広州)有限公司	中国 広州市	2007年
KINUGAWA (Thailand) CO., LTD	タイ アユタヤ県	2008年
TEPRO, INC.	アメリカ テネシー州	2011年

●環境マネジメントシステム推進組織

環境マネジメントシステムの認証取得推進、維持更新のほか、グローバル拠点でCO2 排出量、取水量、産業廃棄物量を把握することにより、環境負荷の少ない企業活動を進めています。

環境マネジメントシステム推進組織



■ 中期環境目標

鬼怒川ゴムでは国内主要拠点の CO2 排出量、産業廃棄物最終処分量、VOC(揮発性有機化合物) 排出量について、経団連-日本ゴム工業会の環境自主行動計画に参加し環境負荷の低減に努めています。

グローバル拠点についてはエネルギー使用量・CO2 排出量・産業廃棄物発生量・水使用量を毎年把握し、エネルギー使用量・CO2 排出量・水使用量は CDP(環境 NPO カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)へ報告しています。

		活動内容	2014年度目標	2014年度実績	評価	参照ページ
1	地球温暖化対策	CO2排出原単位の削減 ※1	2005年度基準2020年度までに15%削減	17%削減	○	P10
2	産業廃棄物削減	最終処分量の削減(直接) ※2	2001年度基準 90%以上削減	100%削減	○	P11
		最終処分率の削減(直接・ 間接) ※3	1%以下	0.7%	○	P11
3	VOC排出量削減	指定17物質の排出量削減 ※4	2000年度基準 50%以上削減	34%削減	× ※5	P12

※1) CO2 排出量原単位: CO2 排出量/ゴム樹脂材料使用量

※2) 廃棄物最終処分量(直接): 自社が埋め立て処分している量

※3) 廃棄物最終処分率(直接・間接): 処理業者が埋め立て処分している量/総発生量

※4) VOC 排出量: 使用している資材に含まれる指定 17 物質の総量

※5) VOC 排出量の目標は未達ですが徐々に削減しています。VOC が含まれる溶剤系の表面処理は水系への変更を展開中で、グローバル拠点で設備設置計画を進めています。2015 年度の排出量見込みは 42%前後と予想されます。

1、地球温暖化対策

CO2 排出原単位の削減

● 気候変動キャンペーン(国内)

鬼怒川ゴムでは地球温暖化防止のために『環境に優しい商品の開発と効率的な物造りで、低炭素社会へ』を宣言タイトルとして Fun to Shareへの登録を行いました。

「Fun to Share」。それは、最新の知恵をみんなで楽しくシェアしながら、低炭素社会をつくっていきましょう！という合言葉。目標に向けてガマンしながら必死に頑張るのではなく、毎日を楽しく暮らしながら、低炭素社会を作ろうという発想です。

代表的な活動として「CoolBiz」、「WarmBiz」があります。



● 生産活動

生産活動において素材の加熱・加工用に多くのエネルギーを使用しており、そのエネルギー元として、電気・ガス・重油などが消費されます。

CO2 は購入しているエネルギーの生成時、使用時に発生します。弊社では全社員が一丸となった省エネルギー活動を通じて CO2 排出削減に日々努めています。

弊社は経団連の『低炭素社会実行計画』に沿った日本ゴム工業会の環境自主活動計画に参加しており目標は基準年度(2005 年)比 2020 年度までに CO2 排出原単位 15%減となっています。

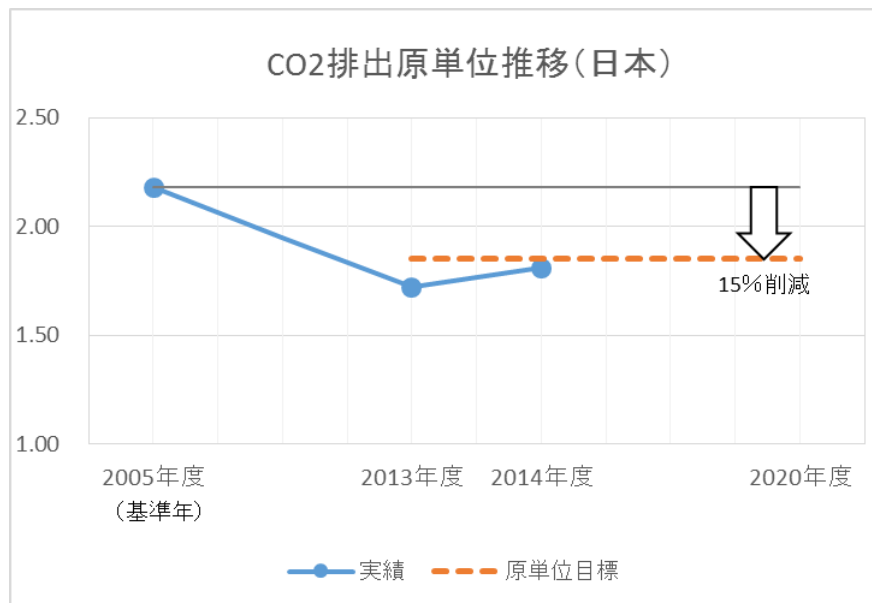
(CO2 排出原単位＝CO2 排出量/ゴム樹脂使用量)

CO2 原単位はエネルギー効率の良し悪しが分かる指標で、当社は 2010 年度から 2014 年度まで目標を達成しており、更に改善を加えエネルギー効率を改善していきます。

具体的な改善事例としては、下記のようなものがあります。

● 具体的な取り組み

- ・既存設備のモーターを省エネモーターへ更新(IE1→IE3)。
- ・新規設備に省エネ油圧ユニットを採用。
- ・適正な容量の動力元への変更。
- ・工場蛍光灯の LED ライトへの更新。



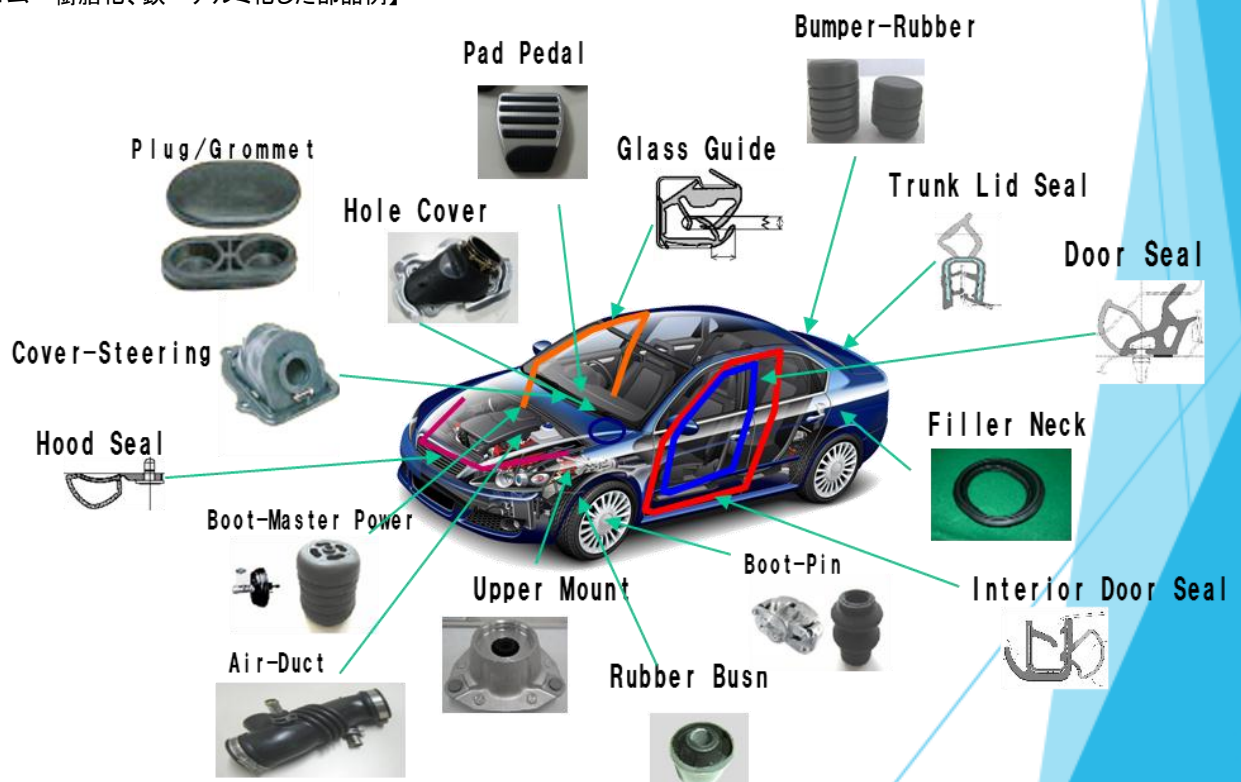
●製品設計(製品の改善)

弊社では車体シール部品であるガラスガイドの断面形状縮小及び樹脂化と、防振部品に於ける鉄部分品のアルミ化により 2005～2014 年の間で 30%もの大幅な軽量化を達成しました。(台当り使用量の当社比、グラフ 1 参照)

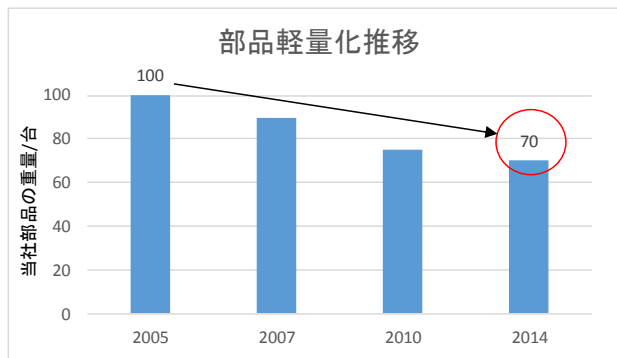
また車体シール部品の樹脂化に伴う工法の改善により、63%の生産エネルギー削減も同時に達成しております。(ガラスガイドの製造電力の当社比、グラフ 2 参照)

シャシー精密部品でも多くの部品の樹脂化、軽量化を行い生産エネルギーの削減を行っています。

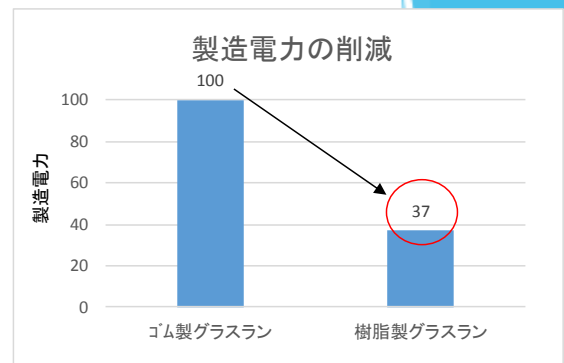
【ゴム→樹脂化、鉄→アルミ化した部品例】



(グラフ1) 2005 年の重量を 100 とし
た時の各年の重量。



(グラフ2) ゴムガラスランの製造電力を 100 と
した時の樹脂ガラスランの製造電力。

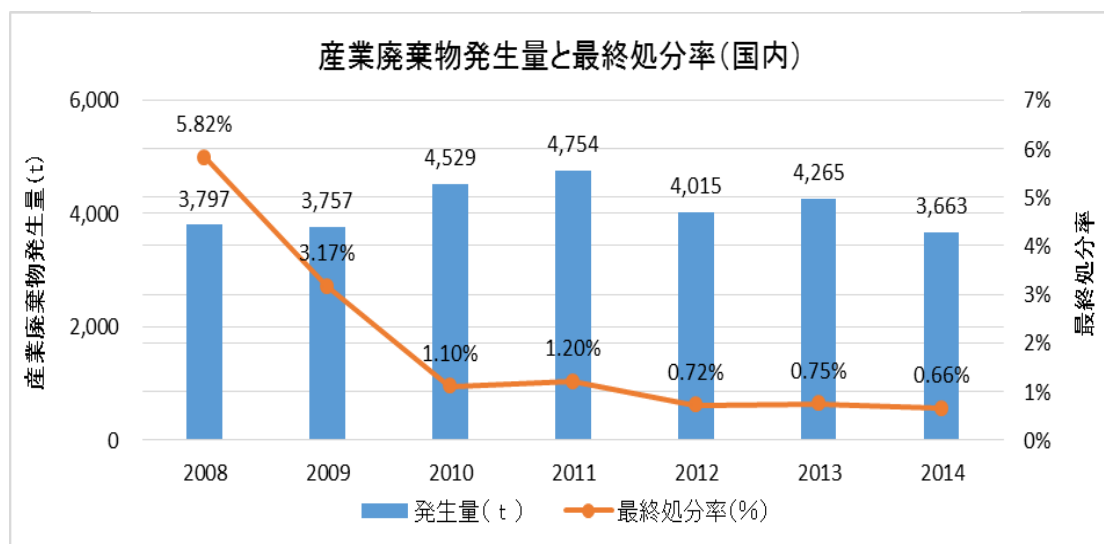


2 産業廃棄物削減(国内主要拠点) 最終処分量の削減、最終処分率の低減

国内主要拠点の産業廃棄物発生量は生産量の増減により変動しています。最終処分率(埋め立て処分率)は 2012 年度から 1%未満を継続しており、ゼロエミッション※1 を達成しています。引き続き 3R(Recycle、Reduce、Reuse)を継続し、埋め立て処分ゼロの完全ゼロエミッション※2 を目指します。

※1)ゼロエミッション : 最終処分率が 1%未満。

※2)完全ゼロエミッション : 最終処分率がゼロ。



●具体的な取り組み

- ・車体シール部品、シャシー精密部品の樹脂化によるリサイクルの容易化(P10 図参照)。
- ・グローバル拠点では粉碎機を標準で設けて、工程内リサイクルが簡単に出来るようになっています。

●PCB 廃棄物の管理

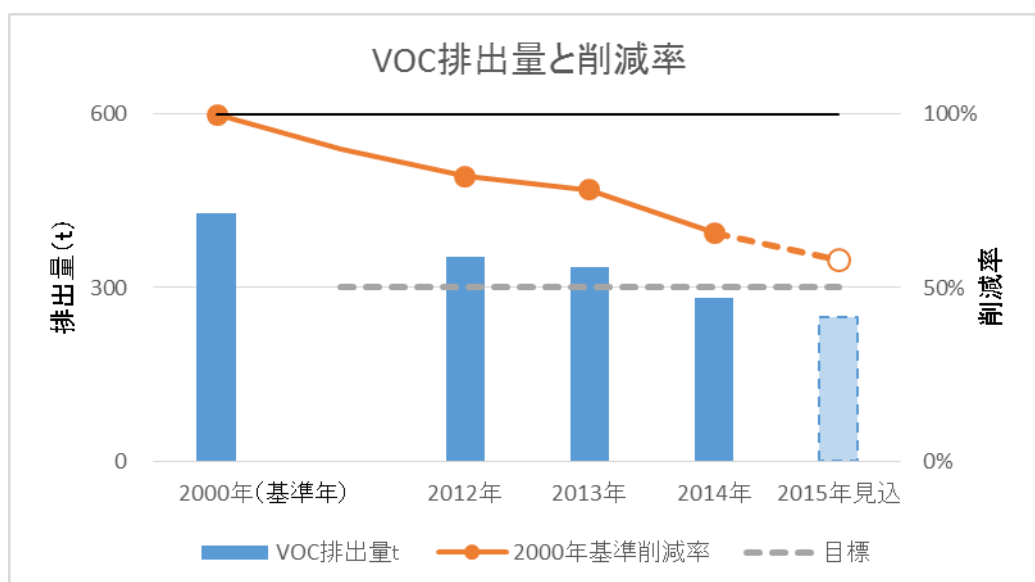
高濃度 PCB を含有しているトランス、コンデンサー、蛍光灯安定器の廃棄物を法規に沿って管理しています。2010 年度には 5 台を日本環境安全事業株式会社(現中間貯蔵・環境安全事業株式会社)で無害化处理しました。

3 VOC(揮発性有機化合物)排出量削減 (国内主要拠点)

指定 17 物質の排出量削減

大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物資とされている VOC(揮発性有機化合物)の削減に取り組んでいます。

2012 年度以降はキシレン、塩化メチレン等有機溶剤の使用削減に努め、排出量を削減することができました。2014 年度も前年度比削減しており、2015 年度は 42%前後までの削減を見込んでいます。今後も下記のような取り組みを行い使用量、排出量の削減に取り組んでいきます。



● 具体的な取り組み

・脱有機溶剤化(水系表面処理剤、水系接着剤への切り替え)

水系表面処理についてはグローバル生産拠点に展開中で、環境負荷の少ない生産活動を今後も継続して行きます。

・表面処理剤の廃止

溶剤を使用しない表面処理方法を多くのシール部品で採用しています。

・VOC 対象外洗浄液への切り替え(塩化メチレン→臭素系溶剤)

・塗着効率の向上

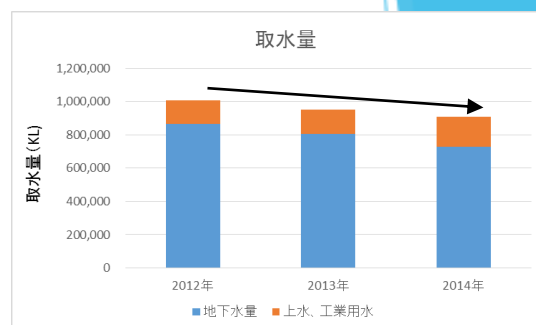
■ グローバル環境データ

グローバル拠点においても環境データを把握し、環境負荷低減に努めております。

● 水資源投入量

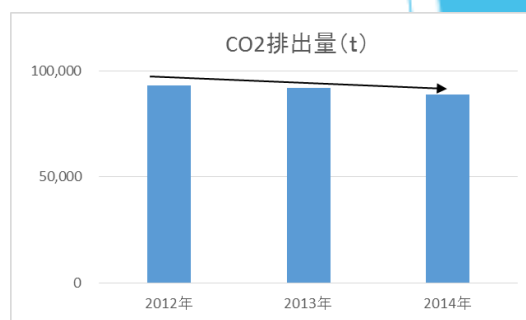
地下水など水資源の使用量削減

鬼怒川ゴムグループの水使用量は低減傾向です。特に地下水の使用量は循環水温度の見直しなどにより低減されています。今後は循環水システムの更新による排水量の削減などで水資源の有効活用に努めます。



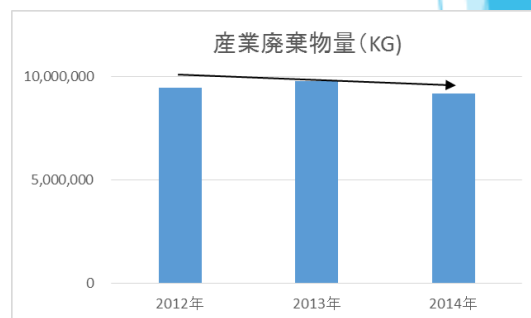
● CO2 排出量

鬼怒川ゴムグループのCO2排出量は低減傾向です。国内同様に効率的なもの造りと、設備の改善によりエネルギー消費を抑え、CO2排出量削減に努めています。



● 産業廃棄物量

鬼怒川ゴムグループの産業廃棄物量は低減傾向です。製品の樹脂化はグローバルに採用されておりリサイクル率向上、産業廃棄物量削減に貢献しています。

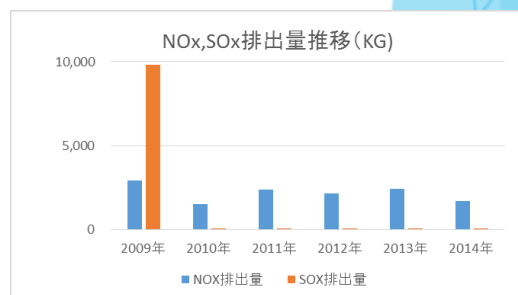


■ その他の環境データ

● 大気汚染物質の排出防止(国内主要拠点)

NOx、SOxの排出削減

温室効果ガスのCO2削減を目的にボイラーの燃料転換(A 重油→都市ガス)を2010年に実施したことによりSOx(硫黄酸化物)とNOx(窒素酸化物)の排出量が低減されました。

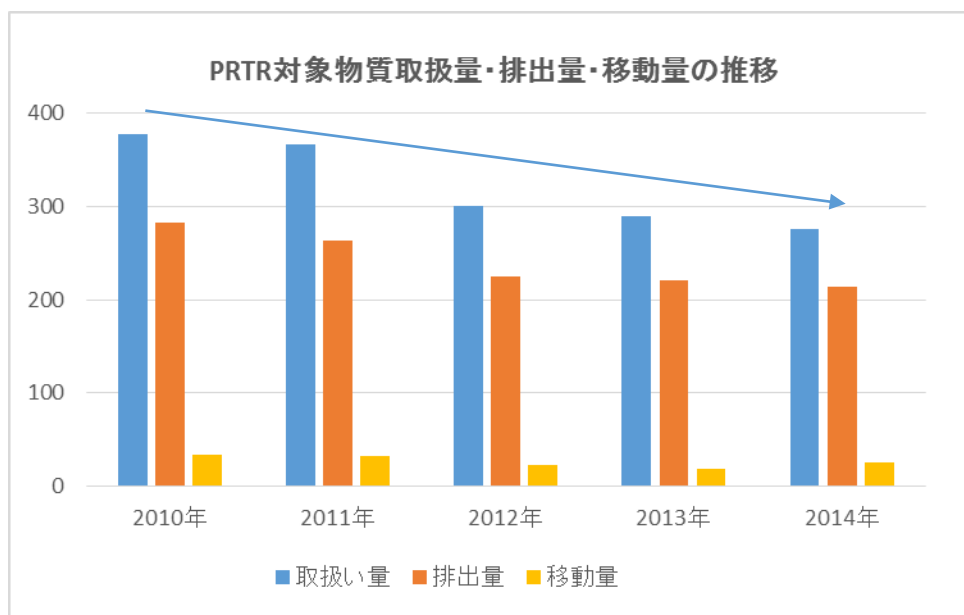


● PRTR※1(国内主要拠点)

※1) PRTR: Pollutant Release and Transfer Register(特定化学物質の環境への排出量の把握及び

管理の改善の促進に関する法律) 対象物質: 第一種指定化学物質および特定第一種指定化学物質

2014年度は16種類、取扱量276tで前年度より13t削減しました。今後も、資材の見直しなど継続した活動により取扱量、排出量、移動量を低減させていきます。



2014年度環境負荷物質の移動・排出状況(2014.4~2015.3)

(鬼怒川ゴムの集計対象16物質の内訳)

<単位t/年>

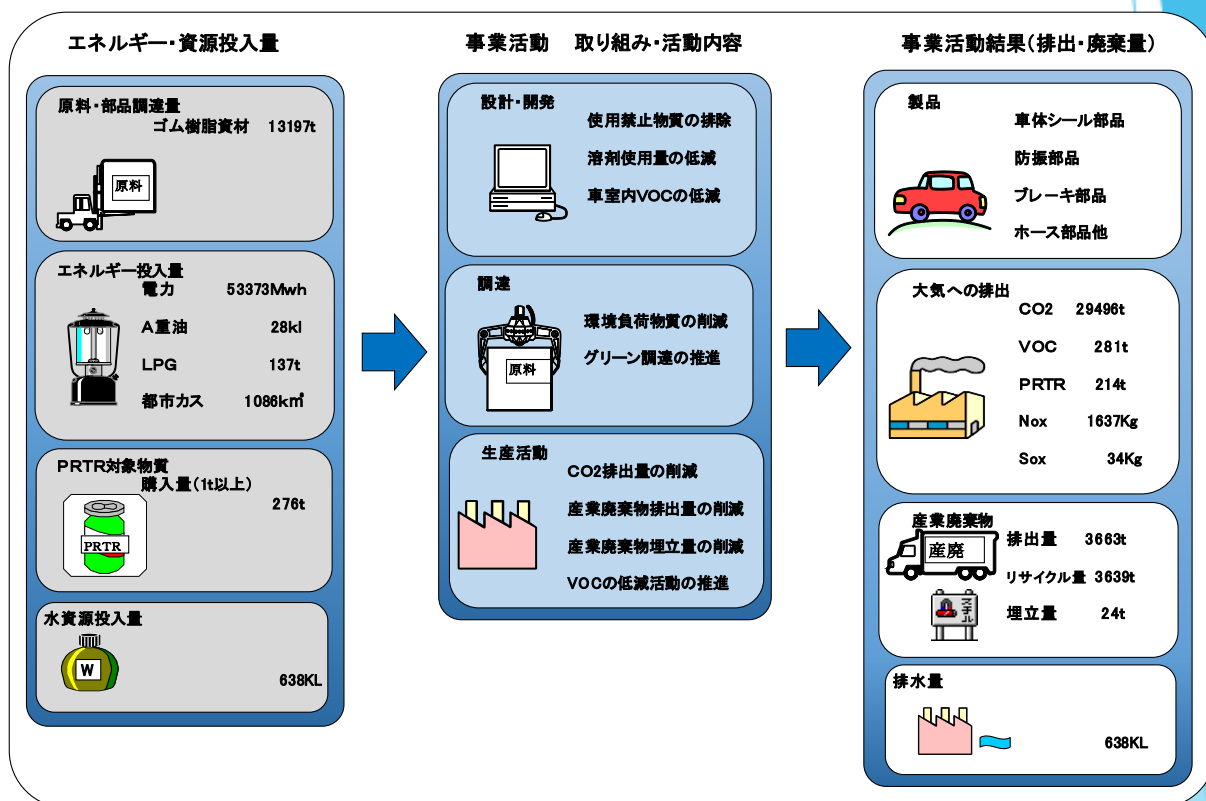
政令 番号	CAS番号	指定化学物質	移動量	排出量			
			廃棄物	大気	水質	土壌	
300	108-88-3	トルエン	12.0	150.0	0.0	0.0	
230	793-24-8	6PPD	2.0	0.1	0.0	0.0	
262	127-18-4	四塩化エチレン	3.0	21.0	0.0	0.0	
80	1330-20-7	キシレン	1.1	20.0	0.0	0.0	
53	100-41-4	エチルベンゼン	0.9	17.0	0.0	0.0	
15	80-51-3	OBSH	0.1	0.0	0.0	0.0	
452	149-30-4	MBT	1.0	0.0	0.0	0.0	
330	80-43-3	ビス(1-メチル-1-フェニルエチル)=ペルオキシド	1.0	0.0	0.0	0.0	
268	137-26-8	チウラム	1.0	0.0	0.0	0.0	
296	95-63-6	1, 2, 4-トリメチルベンゼン	1.0	4.0	0.0	0.0	
384	106-94-5	1-ブロモプロパン	0.0	0.0	0.0	0.0	
186	75-09-2	ジクロロメタン/塩化メチレン	0.1	2.4	0.0	0.0	
42	96-45-7	ETU	1.0	0.0	0.0	0.0	
232	68-12-2	DMF	0.2	0.0	0.0	0.0	
454	95-32-9	2-(モルホリノジチオ)ベンゾチアゾール	0.1	0.0	0.0	0.0	
205	102-06-7	DPG	1.0	0.0	0.0	0.0	
合計			26	214	0	0	

■ マテリアルバランス(国内主要拠点)

国内主要拠点の総物質投入量と排出量・廃棄量を示します。

原材料の多くを占めるゴム・樹脂は、製品の軽量化や生産エネルギー削減のために樹脂比率が高くなっています。また工程内リサイクルが容易なので廃棄物の削減効果も有ります。今後も会社全体で投入量削減、排出量・廃棄量削減に取り組んでいきます。

投入資源と環境負荷排出状況(2014年度実績)



■ 地域との共生、社会貢献

鬼怒川ゴムグループ各社では地域社会の発展のため様々な活動を行っています。

地 域 環 境 活 動



(株)キヌガワ大分では、毎年犬丸川遊歩道付近の草刈を行い工場周辺の環境整備を行なっています。



(株)キヌガワ郡山では定期的に工場周辺の清掃活動を行っています。



千葉本社では定期的に周辺の雑草取り、ゴミ回収を行なっています。

地 域 社 会 と の 交 流



八洲ゴム(福島県)では、工場周辺の道路の砂利除去、土手修理、U字溝 掃除等の環境整備を行っています。



(株)キヌガワ郡山、真岡事業所、(株)キヌガワ大分では、地元小学生などの工場見学を受け入れています。



帝都ゴム(九州工場)では毎年地元中学から工場体験学習の生徒を受け入れています。



キヌガワ大分では地元小学生の課外活動を受け入れています。



鬼怒川橡塑(広州)有限公司では地元高校生の工場実習を受け入れています。



鬼怒川橡塑(広州)有限公司での社員献血活動。全社員が積極的に参加しています。

鬼怒川ゴム工業株式会社

発行：鬼怒川ゴム工業株式会社

〒262-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町 330

問い合わせ：鬼怒川ゴム工業株式会社グローバル管理部

TEL：043-259-3370 FAX：043-259-3108

発行日：2015 年 12 月 15 日